

## 創造者たちの尊い歴史

株式会社アルゴテクノス21  
代表取締役社長

佐藤 雄二郎



1946年2月15日、ペンシルバニア大学では歴史的な記念行事が催されました。

真空管1万8000本、所要床面積165平方メートル(100畳分)、重量30トン、史上初のコンピュータENIACの完成式であります。それはJ.P.エッカート、J.W.モークリー両博士の2年間にわたる言語に尽くせぬ努力と、20万人時を超える協力者たちの支援、そして総額49万ドルに及ぶ開発費の結晶でありました。

円周率を当時としては驚異的な2035桁まで計算し、シャンクスの707桁には528桁目から後に誤りがあることを発見したのも、このENIACでしたが、ENIACの誕生は半世紀後に展開される第三次産業革命の引き金となる、人類史上最大の発明の1つと言えます。その評価はモールの通信機、ベルの電話、エジソンの電灯、シーメンスの電車、グイムラー・ベンツの自動車等に優るとも劣らぬものです。その後、フォン・ノイマンの協力を得てプログラム内蔵方式の考え方を取り入れたEDVAC、BINACの開発を経て、1948年世界最初の汎用コンピュータUNIVAC-Iが米国人口統計局に納入されました。このコンピュータは英数字が直接取り扱え、完全な自動検算回路が備えられ、正逆両方向に読み書きできる磁気テープ装置を有する本格的なデータ処理システムであり、全世界が目を見張り、驚嘆、賛美の渦が巻き起こりました。さて、50年後の今日、驚異的な技術革新

はわずか数ミリ四方のチップにUNIVAC-Iの約1千万倍の能力をもたらし、利用技術の発達と共に産業構造、社会構造の大変革を起こしつつ高度情報化社会から21世紀の知識社会への途をたどる最も重要、貴重な技術として位置づけられています。

しかしこのコンピュータ開発の過程の中で、この事業がいかに難しいかを知らされてきました。特にソフトウェアと通信技術が融合化され、IT (Information Technology) 技術へと大きく変貌した今、世界中の産業史上最大の犠牲が払われている事実はこれを裏づけています。コンピュータ産業は黎明期—成長期—発展期—爛熟期を経て情報産業へと発展し、今ふたたび無限の成長性を秘めるIT産業の黎明期を迎えました。

コンピュータシステム発達の歴史の調べから教えられることは誠に数多くあります。歴史や伝記には感動があり、それが尊いのだと、私は思いません。

ソフトウェアに関しては、私の終生忘れられない事件が2つあります。

1つはあのハードウェアエンジニアであったエッカート博士が1960年来日の際、これからのコンピュータ技術の最も重要な点はハードウェアよりもソフトウェアであると言われた言葉です。

もう1つは、1973年第一次オイル・ショックの

